

事務事業評価シート 平成 27 年度事後評価・決算

平成 29 年 2 月 22 日時点

事務事業名				コード	37540	小学校図書館司書配置事業	予算科目	会計	款	項	目	事業種別	所管課	学校教育課	担当班	指導班
基本施策				11		学校教育の充実	根拠法令	一般	10	2	2	☒ 主な事業				
施策の展開				21		教育支援体制の充実	・改正学校図書館法(H26.6.27)ほか					☐ 国土強靱化地域計画				
施策の展開							戦略事業	114	学校図書館司書配置事業			☐ 新市建設計画				
							戦略事業					☐ 定住自立圏構想				
												☐ 主要事業				

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間		② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない	
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 25 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで		●「学校図書館司書の配置」→学校教育の教育内容の充実を目的に、学校図書館司書を各小学校に配置する。学校図書館の環境を整え、市内小学校児童が図書に触れ合う機会を充実させる。 ●平成27年度からは毎週1日各校に司書が巡回。 【学校図書館司書の主な業務】学校図書館の環境整備(掲示物の作成、季節に合わせた書籍コーナーの設置、図書室への関心を高める仕組み[図書室外含む]、図書だよりの作成等)、蔵書管理、新書購入時の助言、図書廃棄時の助言、児童に対する図書貸し借り業務、授業の中で扱う書籍の収集、準備(市立図書館との連絡・調整含む)、児童に対する本のアドバイス・レファレンス、読み聞かせ、ブックトーク(数冊の本を同時紹介)	
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状		④ 事務事業に関する課題・環境の変化	
国では、平成24年度から学校司書の配置が進むよう、単年度約150億円の地方財政措置(1週当たり30時間の職員をおおむね2校に一人配置することが可能な規模の措置)をとった。それをきっかけに、旭市でも平成24年度に募集をし、平成25年度から3人体制で開始した。		平成26年6月27日に、学校図書館の職務に専ら従事する職員を「学校司書」と位置付けて各学校に配置するよう求めた「学校図書館法の一部を改正する法律」が公布され、平成27年4月1日から施行された。これにより、「学校司書」が初めて法令に位置付けられた。	
⑤ 事務事業に対する住民からの意見等			
		児童から「図書館司書さんと本のことを話せてよかった。もっと学校に来てほしい。」という意見があった。教職員からは、学校図書館司書配置について、「効果がある。」という意見があった(100%)。また「巡回日数を増やしてほしい。巡回日(曜日)を固定化してほしい。」といった要望があった。	

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(27年度の決算)			単位:千円	
1.労災保険料	875	学校図書館司書3名分		
2.臨時雇賃金	5,900	学校図書館司書3名分の賃金		
3.普通旅費	7	千葉県教委主催の研修への参加		
4.消耗品費	0	USBメモリ等		
② 特定財源の内訳(27年度の決算)			単位:千円	
1.国庫支出金	0			
2.都道府県支出金	0			
3.地方債	0			
4.その他	0			

事業費	費目内訳	1. 労災保険料	千円		576	407	875	1,146
		2. 臨時雇賃金	千円		3,963	4,192	5,900	6,875
		3. 普通旅費	千円		0	5	7	7
		4. 消耗品費	千円		38	7	1	15
			千円					
	財源	事業費計 (A)	千円	0	4,577	4,611	6,783	8,043
		1. 国庫支出金	千円					
		2. 都道府県支出金	千円					
		3. 地方債	千円					
		4. その他	千円					
5. 一般財源	千円	0	4,577	4,611	6,783	8,043		

前年度 増減理由	図書館司書の人数が2名から3名に増えたため。
-------------	------------------------

従事職員数	常時	1人	最大	2人	×	12日	=	延べ	24人
-------	----	----	----	----	---	-----	---	----	-----

前年度増減理由	図書館司書の人数が2名から3名に増えたため。
---------	------------------------

従事職員数	常時	1人	最大	2人	×	12日	=	延べ	24人
-------	----	----	----	----	---	-----	---	----	-----

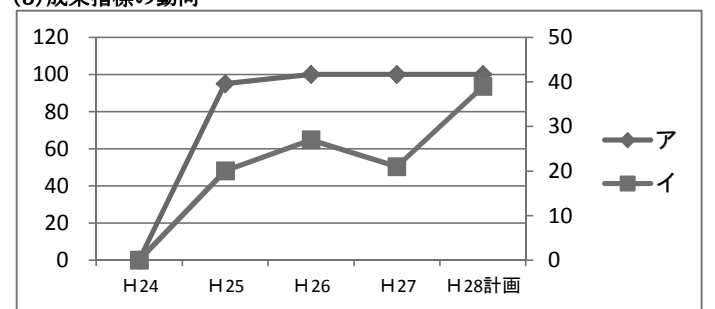
(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

手段	① 主な活動	⇒	③ 活動指標名	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
	27年度実績(27年度に行った主な活動)		ア 学校図書館司書一人の担当校数	校	—	7	7	5	5
目的	学校図書館司書を3名採用し、市内小学校15校を巡回。学校図書館の環境整備と児童の読書指導を実施。配置に対する年2回のアンケート調査を実施。		イ 1校当たりの年間巡回回数	日	—	27	27	39	39
	② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	⇒	④ 成果指標名	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
目的	対象・学校図書館施設、図書 市内小学校児童 意図・学校図書館施設が利用しやすくなる。掲示物等を作成し、図書が探しやすいことで、児童の図書の貸借がスムーズになる。		ア 年度末アンケート調査での肯定的評価の割合(%)	%	—	95.0	100.0	100.0	100.0
	対象・学校図書館施設、図書 市内小学校児童 意図・読み聞かせや読書の授業の補助等を行い、学校図書館司書と児童の触れ合いの時間が増えることで、市内小学校児童等が、読書の楽しさや大切さを理解する		イ 1校当たりの読み聞かせの時間(年間)	時間	—	20.0	27.0	21.0	39.0

(4) 事務事業優先度評価の結果

① 成果優先度評価結果		② コスト削減優先度評価結果	
成果向上余地	成果向上余地	コスト比率	コスト比率
	かなりある ②		下位 1/3 中位 1/3 上位 1/3
施策貢献度	大きい	評価結果	①
	普通		② ③ (2)
小さい			④⑤ ⑥
			⑦⑧ ⑨

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

評価内容	① 進捗状況	☐ 完了 ☒ 順調 ☐ 概ね順調 ☐ 停滞 ☐ 実施困難	
	【コメント】(停滞・実施困難の場合、その理由)		
	② 成果の状況	成果指標ア 成果指標イ	数値増=成果向上 ☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下
	【コメント】(低下の場合、その理由)	平成27年度は学校図書館司書3名とも、新規採用者だったため、4・5月においては複数で活動し、業務内容を確認しながら仕事を進めた。そのため、成果指標イの「読み聞かせ」について、本格的に実施したのが9月以降となり、年間の実施回数を平均すると目標値よりも低下した。	
評価内容	③ 今年度取組事項(今年度新たに取り組む事項について記載)	時期	内容
		①28年4～5月 ②29年3月(8月除く)まで	①栄養教諭と連携し、「ものがたり給食」(絵本や物語に出てくる料理を毎月1回給食のメニューに取り上げる。)を実施するために選書をし、年間計画を作成する。 ②選書した本の読み聞かせを行う。
評価内容	今後の方向性	☒ 拡大 ☐ 縮小	☐ 現状維持 ☐ 廃止・休止 ☐ 見直し ☐ その他 ()
	平成29年～随時	国の示す目安では、学校図書館に関する業務に従事する職員(1週当たり30時間相当)をおおむね2校に一人配置するという数値がある。(学校図書館整備5年計画) 旭市の現在の体制は、5校に一人配置なので、それに近づいていくために、学校図書館司書としての雇用者数を増加していく必要がある。	